

# 「就籍、最後の一人まで」

## 国籍回復者 200 人を達成

### 日系人会が年次総会

フィリピン日系人会連合会は4日、首都圏マニラ市のホテルで第10回年次総会を開き、日系2



4日、青木秀茂弁護士が就籍の困難や展望について語る。写真は、4日午後4時ごろ、首都圏マニラ市で富田すみれ子撮影

世（残留日本人）の日本国籍回復について意見交換、最後の一人まで就籍運動を継続する方向を確認した。

総会には日系2世をはじめ日系人会関係者ら計180人が参加。沖繩家裁から7月に就籍を裁定され、就籍許可者200人目となった赤嶺・オーロラ・ハルコさん(88)や、就籍裁判を担当する日本の弁護士、羽田浩一大使も出席した。

7月には2世の日本国籍回復事業での就籍許可者200人を達成したが、弁護士は「就籍を望む2世がいる限り、最後の一人まで運動を続ける」と表明した。羽田大使は講演で、大使館や日本政府も引き続き事業に協力していくとの意向を示した。

パネルディスカッション

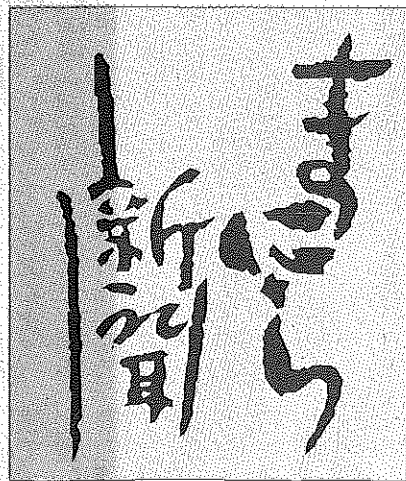
ンでは、日系人を支援するNPO法人、比日系人リーガルサポートセンター（PNLSC、東京都新宿区）や日本財団関係者、就籍裁判を担当する青木秀茂弁護士らが、国籍回復事業の変遷について説明。2003年のPNLSC発足当時は日本の裁判官らに「（就籍は）あり得ない」との対応もとられた同事業も、フィリピン日系人の歴

史や比の家族法を紹介、徐々に理解を得られてきたという。これまでの戸籍取得者は209人。比日系人会連合会のマリヤリ会長は、16年1月に来比された天皇、皇后両陛下が2世約80人と懇談されたことにも触れ「もう日系人は忘れ去られた存在ではない。比日の架け橋となつていこう」と呼び掛けた。

（富田すみれ子）

2017年（平成29年）11月5日（日曜日）

日刊



The Daily MANILA SHIMBUN